

平成27年度第2四半期「景気動向調査」結果報告

製造業では景気回復傾向、非製造業でも持ち直しの動きが強まる

コメント: **【製造業】**

売上(出荷)高では、4期連続しての回復であり、回復幅も10ポイント以上あった。しかし、昨年との比較では▲17.2と未だ低水準。持ち直しの動きが続き、回復基調を維持していけるか今後の調査が注目される。

景況感では、以前悪化傾向。売上は上昇しつつも景気回復を実感する事業所が少ない。昨年よりは悪化幅が小さいものの、▲24.1と厳しい水準である。三カ月後予測においても15.6から▲3.4とかなり厳しい見通し。

今夏の一時金に関する調査では、約半数が「同水準で支給」と回答。次いで38%(15社)が「増額」であった。

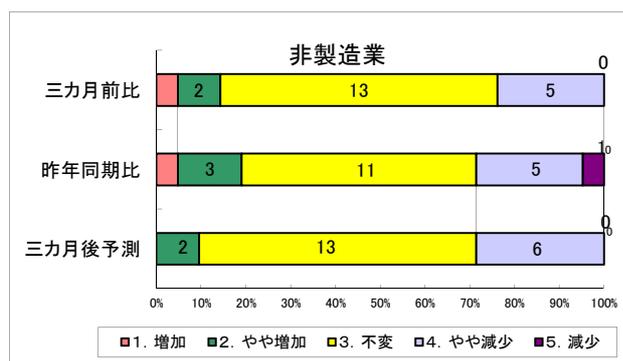
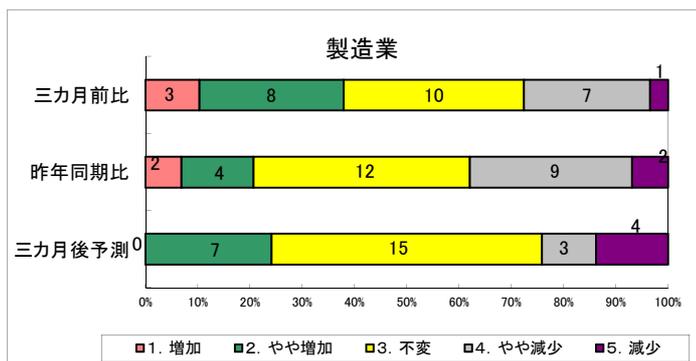
【非製造業】

売上(出荷)高では、製造業同様に回復傾向が続いた。三カ月前比では2月調査時の▲38.1から▲9.5まで持ち直し、昨年ほどの増加幅ではないものの今後プラスの値へ転じていけるか注目される。

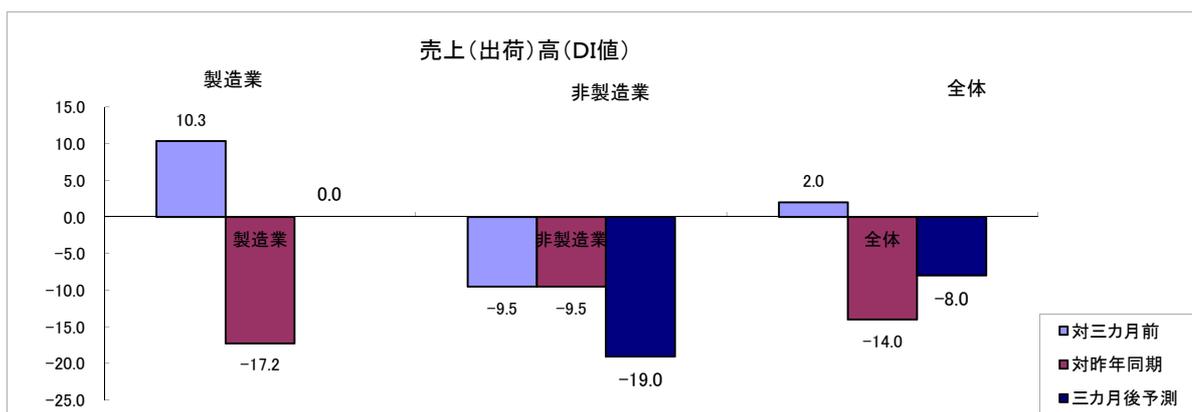
景況感では、売上高に比例するように回復傾向が見られた。対三カ月前比では直近調査では最大の4.8まで回復。今後の予測においても横ばいでの推移を期待する事業所が多い結果となった。

今夏の一時金に関する調査では、製造業同様に約半数の事業所が「同水準で支給」と答え、最多であった。

1. 貴社の売上(出荷)額について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	10.3	-17.2	0.0	0.0	-28.1	31.3
非製造業	-9.5	-9.5	-19.0	-19.0	-23.8	-14.3
全体	2.0	-14.0	-8.0	-7.5	-26.4	13.2

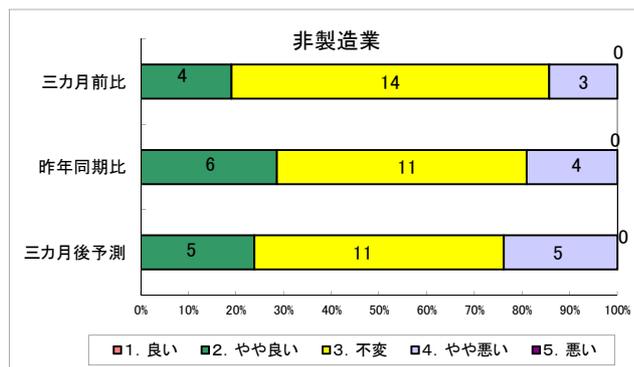
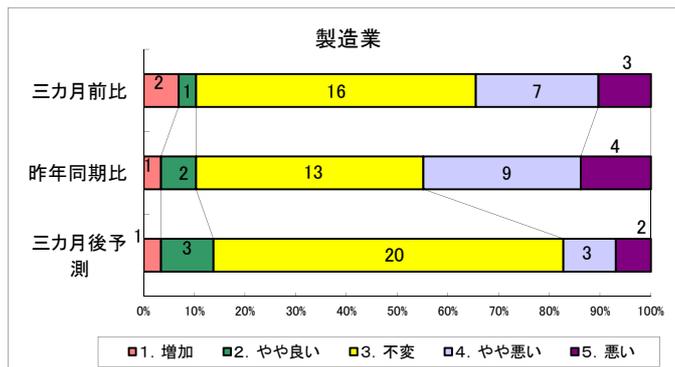


対三カ月前比において、製造業ではDI値が0.0から10.3へと昨年の秋以降、3期連続で回復の動きが見られ、大きくプラスの値に転じている。このまま回復基調が続いていくか、今後の調査が注目される。非製造業においても▲19.0から9.5回復し、▲9.5となっており景気の後退感に歯止めがかけられ緩やかなテンポで回復の動きが見られた。

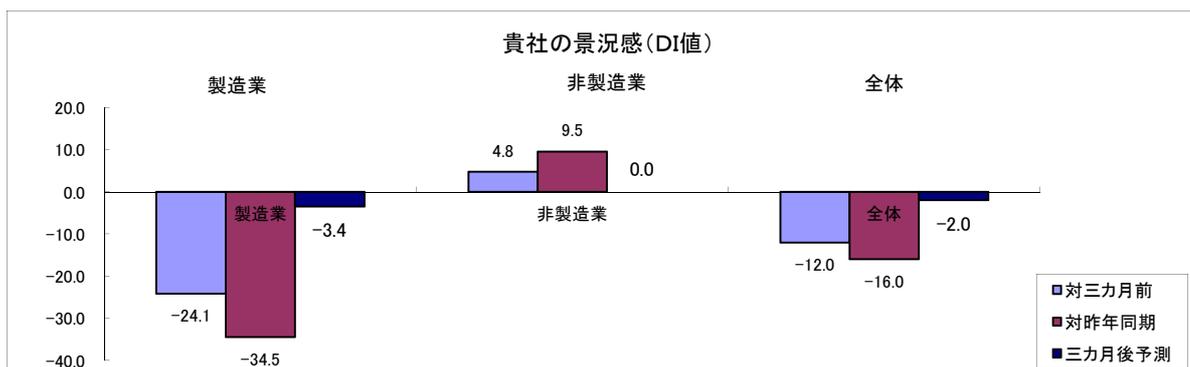
対前年比において、製造業では▲28.1から10.9回復し、▲17.2となっており今期は昨年と同程度の回復幅であった。非製造業では▲23.8から14.3回復し、▲9.5と昨年と比較すると回復幅に差が見られるも、2期連続しての回復となった。

三カ月後予測において、製造業では31.3から0.0と今期同様の売上高を予想する事業所が目立った。一方で非製造業では▲14.3から4.7悪化し▲19.0と先行きは慎重な見通しをされる事業所が目立った。

2. 貴社の景況感について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	-24.1	-34.5	-3.4	-21.9	-25.0	15.6
非製造業	4.8	9.5	0.0	0.0	-23.8	-19.0
全体	-12.0	-16.0	-2.0	-13.2	-24.5	1.9

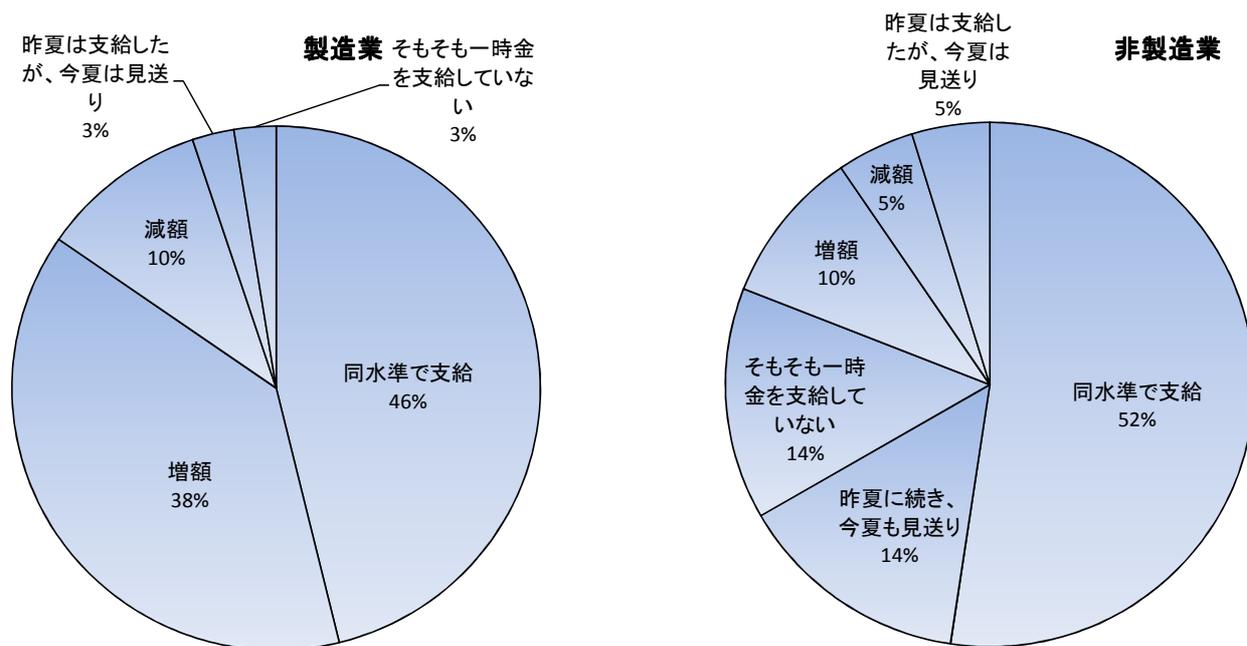


対三カ月前比において、製造業ではDI値が▲21.9から2.2悪化し▲24.1と、売上高の増加が見られるも景気の回復を実感する事業所は未だ少ない。非製造業では0.0から4.8と緩やかな回復の動き。製造業とは逆の動きで、直近調査では最大値であり次期以降の調査が注目される。

対前年比において、製造業では▲25.0から9.5悪化し▲34.5と昨年に比べるとかなり厳しい水準である。景況感に関しては2期連続しての下落であり予断を許さない状況が続く。非製造業では▲23.8から33.3回復し9.5と昨年ほどの回復幅ではないが順調に推移している。製造業とは違い、売上高・景況感共に上昇している。

三カ月後予測において、製造業では景況感の悪化から15.6から▲3.4と今後も厳しい見通しをされている。一方で非製造業では▲19.0から0.0と横ばいでの推移を予想。

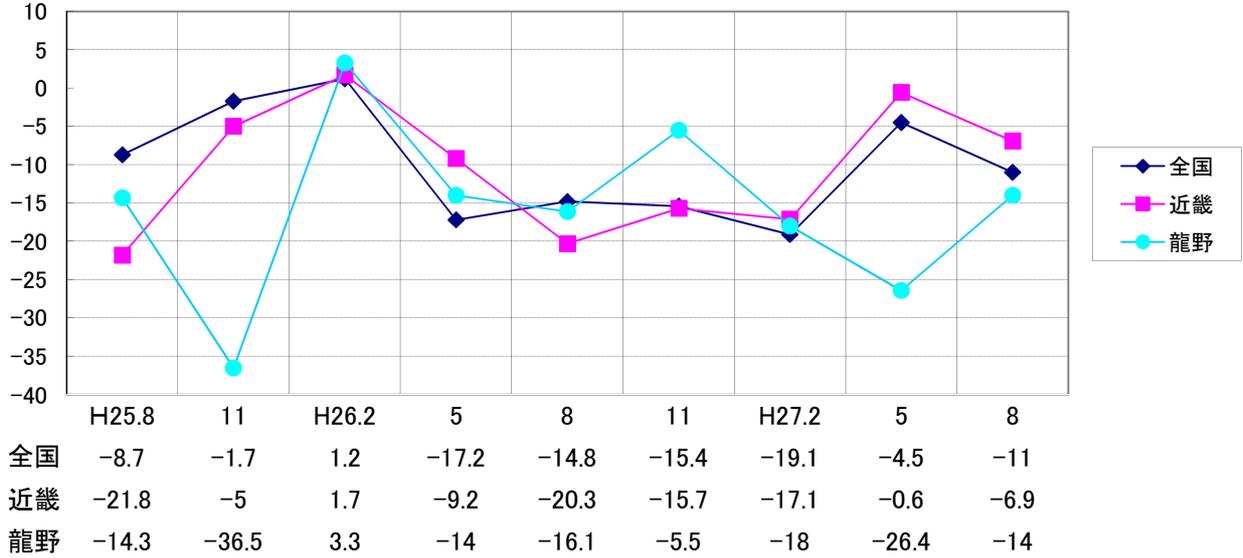
3、昨夏(平成26年夏)と比較して、貴社の正社員における今夏(平成27年夏)の一時金の動向についてご回答ください(単一回答)



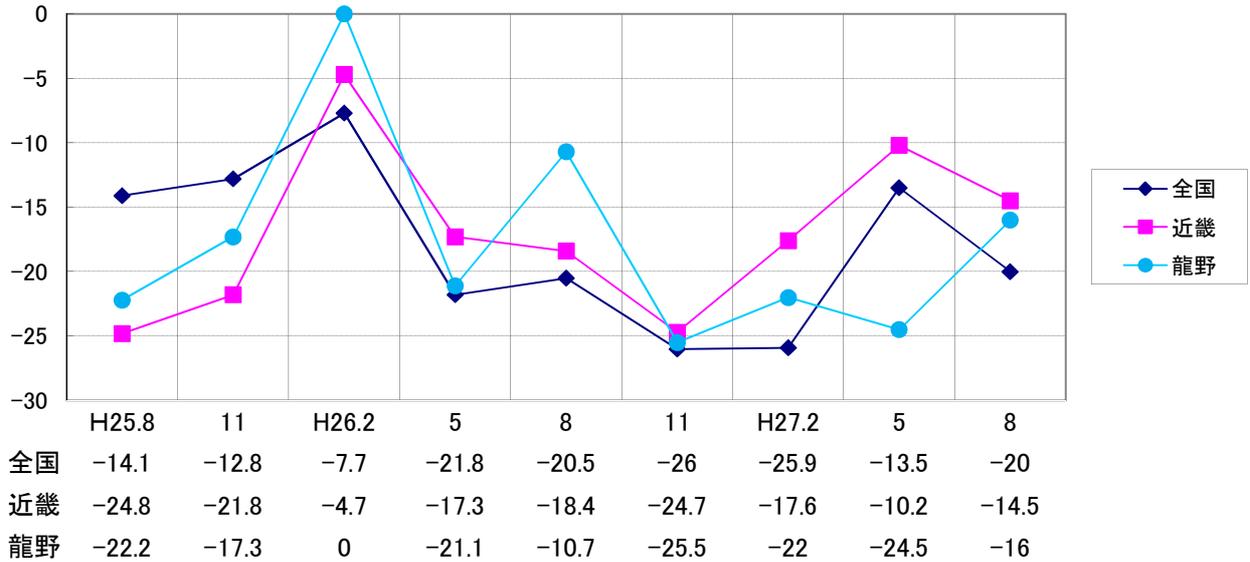
両業種ともに、約半数の事業所が今夏の一時金について「同水準で支給」と回答。製造業では38%(15社)が「増額」と答え、非製造業においても10%(2社)が回答しており、「減額」の事業所を上回った。

全国・近畿ブロック調査との比較

売上(出荷)額 対前年比



貴社の景況感 対前年比



全国・近畿ブロック別調査……………日本商工会議所実施のLOBO(早期景気観測)調査
 ※H27. 8の数値は7月度実施分を掲載

調査概要

1. 調査目的 四半期ごとに景気動向調査を実施し、管内景況を恒常的に把握する。
調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。
2. 調査期間 平成27年7月29日～8月7日(基準日8月1日)
3. 調査方法 FAXIにより依頼、回答
4. 調査対象 各役員議員、部会役員 127社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

5. 回答企業の属性

所属部会	対象数
一般工業	22
建設業	17
醤油工業	7
食品工業	13
皮革工業	17
公益業	17
サービス業	9
理財	8
商業	17
合計	127

調査対象	対象数	回答数	回答率
製造業	76	29	38.2%
非製造業	51	21	41.2%
合計	127	50	39.4%